



# 学校だより

平成29年10月31日

横浜市立洋光台第三小学校

11月号 校長 皆川 誠

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai3/>

## 「本物」体験を通して

校長 皆川 誠

10月は雨の日が続き、12月並の寒さを記録する日もあるなど、異常ともいえる気候でした。そのため、運動会などの学校行事を予定通り実施することができずに困った学校も多かったように聞いております。本校も、1, 2年生の野毛山動物園への遠足が雨のために11月に延期になり、また、6年生の日光修学旅行は、台風21号の影響を受けて12月に延期となるなど、大きな影響を受けました。

近年は、「観測史上初」とか、「数十年ぶりの・・・」といった言葉をよく耳にするようになりました。さらには、過ごしやすい「秋」という季節が大変短くなり、暑い日々から解放されたかと思うと、今度はすぐに寒い日が訪れているような気がしてなりません。こうした異常気象と言われているものが、平年並みというものになってしまわないか、このことが心配されてきます。地球環境を守るという意識を皆で大切にしていかなければならないと、改めて感じているところです。

さて、洋三小では、「豊かな心の育成」を目指して、いくつかの取組をしておりますが、今回は、2つのことを取り上げたいと思います。

まずは、年間を通じた「あいさつ運動」を通して、挨拶の意識向上に努めています。今年度は、「自分から先に」「名前を呼んで」そして、「笑顔で」を心がけて挨拶できるよう指導している所です。年度当初と比べると、挨拶の仕方が上手になってきているのを感じます。特に、家路につく時に、校庭の通路から校長室に向かって、「校長先生、さようなら」と、笑顔で、中には手を振りながら挨拶をする子どもが増えてきています。まさに「自分から先に」「名前を呼んで」「笑顔で」を実践している姿です。こうした姿に、一日の疲れが癒されている毎日でもあります。

もう一つは、「本物」に感動する豊かな感性の育成に努めています。最近では、9月に、5年生が、みなとみらいホールで神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏を聴いてきました。プロのオーケストラによる演奏を聴いて、その迫力と指揮者を中心としたオーケストラの一体感を感じとっていたようです。10月に入り、4年生は、横浜市芸術文化教育プラットホームの学校プログラムにおいて、杉田劇場の方々が中心となって、「笙(しょう)」や「箏(ひちりき)」などの和楽器を紹介していただき、さらにそれらを使って「越天楽」を一緒に演奏するという活動に取り組みました。3時間程度の限られた時間でしたが、子どもたちは和楽器や雅楽に興味をもって活動し、最後は和楽器とリコーダーとで「越天楽」の演奏を楽しむことができました。また、5, 6年生は、横浜 DeNA ランニングクラブから2名のコーチを招き、走りのコツについて学びました。このお二人のうち、一人は元オリンピック代表選手、もう一人は箱根駅伝の優勝チームのアンカーという輝かしい経歴をお持ちの方で、一つひとつ手本を示し、子どもたちを楽しませながら指導してくださいました。

このような普段なかなか経験できない「本物」にふれる活動を通して、洋三小の子どもたちが感性を磨き、さらに心豊かに成長してくれることを期待しています。